

緊急時の対応

いつ、どこで起こるか分からない災害に対しては、日頃からの準備が大切です。災害時でも慌てずに行動できるようにしておきましょう。

日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認(学校付近および自宅周辺等)
- 家族との連絡方法および待合せ場所の確認
- 災害伝言サービスの確認と登録(メール宛先等の事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認(災害時徒歩 約2.5km/h)
- 緊急時メモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認(学校および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- 学校および友人等への連絡方法の確認およびリスト整備

緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておく便利な物

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 現金(小銭も) | <input type="checkbox"/> 学生証(免許証なども) |
| <input type="checkbox"/> 健康保険証 | <input type="checkbox"/> アドレス帳
(家族、友人の連絡先を記入) |
| <input type="checkbox"/> タオル・ぼんそうこう・包帯 | <input type="checkbox"/> 雨具(カッパなど) |
| <input type="checkbox"/> 手回し充電ラジオ・ライト | <input type="checkbox"/> 携帯充電用USBケーブル |
| <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウェットティッシュ | <input type="checkbox"/> ポリエチレン製ごみ袋 |
| <input type="checkbox"/> チョコレート・あめなど | <input type="checkbox"/> 油性マジックペン |

その他非常時に必要なアイテム

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> 印鑑 |
| <input type="checkbox"/> 常備薬とその処方箋 | <input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下 |
| <input type="checkbox"/> 運動靴 | <input type="checkbox"/> リュック |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> ひも・ロープ | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 予備電池 | <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き |
| <input type="checkbox"/> スリッパ | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | <input type="checkbox"/> 非常用食料・水 |

memo

大学への連絡方法

落ち着いたら大学へ安否を知らせる

- 大地震が発生した場合、本学は学生の安否確認を行います。
- 地震発生後、大学からメールが送信されますので、メール内容の指示に従い、返信してください。
- 送信するアドレスは、学生ポータルサイト(C plus等)へ登録されているアドレスとなります。携帯電話でメールを確認できるようにしておいてください。
またメールのフィルタリング機能を利用している場合は「~@g.chuo-u.ac.jp」からのメールを受信できるようにしておいてください。
- 万が一の際、大学からの重要な情報が受信できるよう、登録アドレスは有効なものに必ず変更してください。



八ガキによる報告 ※上記による連絡ができない場合

大学住所：〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1
中央大学 安否確認係 宛
※電話での報告は極力控えてください。

報告事項

大学へ報告すべき事項は以下の通りです。

- ① 氏名
- ② 学籍番号・所属学部
- ③ 携帯電話番号
- ④ 本人・家族の状況
- ⑤ 自宅や避難場所付近の状況
- ⑥ 避難している場合は避難先の住所、連絡先等
- ⑦ その他(困っていることなど)

家族への連絡方法

171 ダイヤル 災害用伝言ダイヤルで安否確認!

伝言を録音する⇒171+1+電話番号(市外局番から)
伝言を再生する⇒171+2+電話番号(市外局番から)
メッセージ登録内容：音声

※災害用伝言ダイヤルは震度4以上の地震が発生した場合に利用できるようになります。

知っておこう 伝言ダイヤルのしくみ

- ◎ 被災地(名古屋)のAさんが伝言を録音し、福岡のBさんが伝言を再生する例。
- ◎ 災害により混雑する名古屋～福岡の回線を利用しません。

Aさん(被災地:名古屋)

各電話機から、災害用伝言ダイヤルで
自宅の電話番号をキーに、伝言を録音。
例) 171+1+052+123+4567
(Aさん自宅電話番号)

Bさん(福岡)

被災者Aさん宅の電話番号を
キーに、伝言を再生する。
例) 171+2+052+123+4567
(Aさん自宅電話番号)

携帯電話 事前の登録が必要ですよ!

携帯各社「災害用伝言板」※事前にテストしてください。

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害用伝言板サービス。あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言版に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供される。また、インターネットからも安否情報の確認が可能。



NTTドコモ



au/KDDI



ソフトバンク



ワイモバイル

キャンパス滞在中に災害その他緊急の事態が発生した場合は、次のように行動してください。

(1)緊急事態が発生した場合は、すべて大学から緊急放送でお知らせしますので、指示に従って冷静に行動してください。

(2)大地震の際の行動マニュアル

I. 大地震が起きた場合の基本行動

- 地震の主震動は1分～2分程度であるため、落ち着いて行動する。
- 余震があることも頭に入れておく。
- 衣類・持ち物等で頭を覆い、落下物（黒板・モニター・蛍光灯等）や転倒物から身を守る。
- ドア付近の人はドアを開け、出口を確保する。

II. 避難する場合の基本行動

【屋内から屋外への避難】

- ① 出口に殺到しないので整然と避難する。
- ② 身体障害者や負傷者がいる場合は、周りの学生とサポートをする。
- ③ 停電した場合、誘導灯を目印に避難する。
- ④ 避難には、必ず階段を使用する（エレベーターは絶対に使用しない）。
- ⑤ ドアを開放したまま避難する。ただし、火災が発生し消火不能の場合はドアを閉めて避難する。
- ⑥ 煙が発生したら煙を吸わないよう、ハンカチ等を口と鼻にあて、姿勢を低くして避難する。

【屋外から避難場所への避難】

- ① 衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守る。
- ② 窓ガラス・外壁・看板等の落下物に注意する。
- ③ 地面の亀裂や陥没、隆起に注意する。

【多摩キャンパス】

避難場所	号館・棟
桜広場	1号館、2号館、中央図書館、8号館～11号館、ヒルトップ'78
ラグビー場	3号館、4号館、第1体育館、サークル棟別棟(1)、弓道場、馬場、グリーンテラス、Cスクエア、グローバル館、FOREST GATEWAY CHUQ、国際教育寮
陸上競技場	5～7号館、第2体育館、サークル棟別棟(2)(3)、炎の塔

【後楽園キャンパス】

一時避難場所	6号館北側広場
--------	---------

【市ヶ谷田町キャンパス】

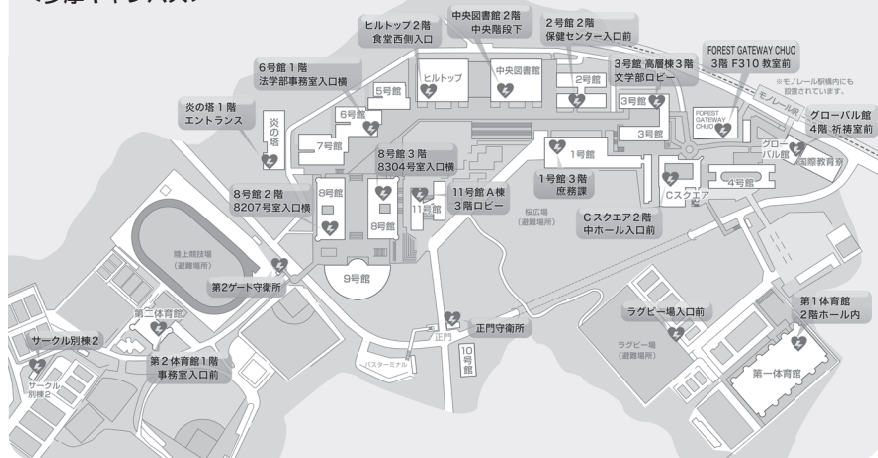
一時集合場所	1階エントランスホール
--------	-------------

【茗荷谷キャンパス】

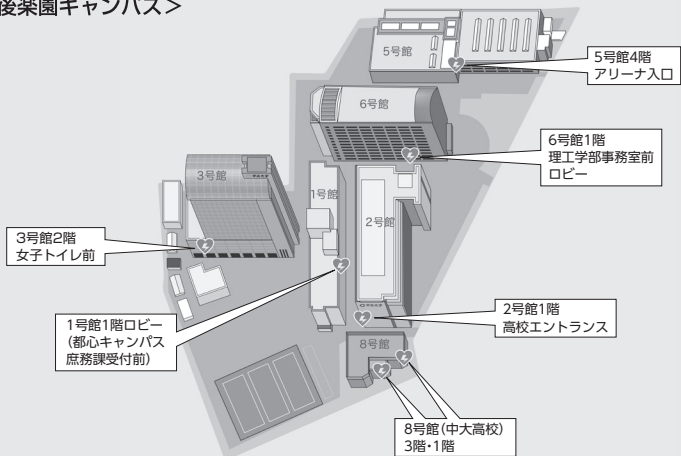
一時待機場所	地震等の災害により停電が発生し、帰宅困難なケース 1階：エントランスホール・Myogadani student Hub B1階：学生食堂・購買 ※緊急放送でお知らせしますので、その指示に従ってください。
--------	--

AED の設置場所

<多摩キャンパス>



<後楽園キャンパス>



AED は、突然の心肺停止者に対し、心臓への除細動（電気ショック）を自動で行うことができる機器のことです。AED は小型軽量で携帯にも支障がなく、操作も非常に簡単です。電源ボタンを押すと（または、ふたを開けると）電源が ON になり、以降は全て音声で使用方法を指示してくれます。また、除細動が必要ない場合には、ショックボタンを押しても通電されないなど、安全に使用できるように設計されています。

多摩キャンパスには 19 ヶ所、後楽園キャンパスには 7 ヶ所、茗荷谷キャンパスに 3 ヶ所、市ヶ谷田町キャンパスには 1 ヶ所、設置されています。

心肺蘇生の手順

*新型コロナウイルス感染症の
流行を踏まえた傷病者対応

傷病者の発生

早期認識と通報

周囲の安全確認

意識の確認

軽く肩を叩きながら声をかける

*傷病者の顔と救助者の顔が、
あまり近づきすぎないようにする

反応なし、または判断に迷う場合

大声で周囲に助けを求める

119番通報依頼・
AED依頼

通信指令員の
指導に従う

心肺蘇生とAED

呼吸の確認

10秒以内で確認する

普段どおりの
呼吸あり

様子を見ながら
応援・救急隊を待つ

普段どおりの呼吸なし、
または判断に迷う場合

*傷病者の顔と救助者の顔が、
あまり近づきすぎないようにする

*30回の
胸骨圧迫

*子どもに対しては、人工呼吸の技術と
意思があれば、2回の人工呼吸も組み合わせる

*ハンカチやタオルなどがあれば、傷病者の
鼻と口にかぶせる
マスクや衣服などで代用可

AED装着

電源を入れ、電極/パッドを胸に貼る

心電図解析

電気ショックは必要か？
(AEDが判断)

必要なし

ただちに
胸骨圧迫を再開

必要あり

電気ショック
ショック後ただちに
胸骨圧迫を再開

*胸骨圧迫は、強く・早く・絶え間なく。救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に
普段どおりの呼吸や目的のある仕草が認められるまで続ける。

*救急隊に引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う。
傷病者の鼻と口にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れないようにして
廃棄することが望ましい。